

0歳 1895年 明治28年
11/18 玉井村(現大玉村)で
野内与惣松とイセの次男として出生。
野内家は、4代にわたり村議会議員を出しており、
父与惣松も村議会議員や消防組頭を務めた。

10歳 1906年 明治39年
玉井尋常小学校を卒業

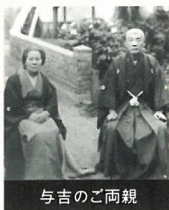
14歳 1910年 明治43年
玉井高等小学校を卒業

21歳 1917年 大正6年
契約移民としてペルーへ渡航。半年で農園を出て
各地を放浪。プエルト・マルドナードで衣料品店
を開業。

27歳 1923年 大正12年
プエルト・マルドナードで火災にあい、
残ったタイプライターを売ってクスコ市に。

29歳 1925年 大正14年
ペルー国有クスコ・サンタ・アナ鉄道の機関士に
なり、路線拡張工事に携わる。

32歳 1928年 昭和3年
マリア・ポルティージョ(当時18歳)
と結ばれ、3男1女に恵まれる。鉄道の
仕事をやめ、製材所で働いた後、
木材会社を設立する。



与吉のご両親



妻マリアと子供と与吉

野内与吉 ヒストリー

— 年表 —

33歳 1929年 昭和4年
与吉はマチュピチュ集落に定着する。
集落に湧き水をひいたり、温泉を見つけて入浴設備を
作ったり、人々のために尽くし、皆から喜ばれる。

39歳 1935年 昭和10年
マチュピチュ集落にホテル・ノウチを開業。
3階建てで、1階は村の郵便局・交番として無償提供。
2階は村長室・裁判所、3階が客室とされ、
村の中心として発展した。
この頃、川をせき止めて
ダムを作り、水力発電設備
を作って、村に電気を
引いて住民に喜ばれる。



ホテル・ノウチの痕跡

43歳 1939年 昭和14年
マチュピチュ集落の行政官に任命

48歳 1944年 昭和19年
マリア・ポルティージョと別れ、マリア・
モラレスと再婚。5人の子供に恵まれる。

51歳 1947年 昭和22年
村の川が氾濫して土砂崩れ被災、
野内与吉が村人と共に地方政府に
支援を要請

52歳 1948年 昭和23年
マチュピチュ村復興のため、村長に任命

56歳 1952年 昭和27年
クスコ・サンタ・アナ鉄道に
再度勤務。定年まで勤め、
仕事を息子のセサル・
ノウチ・モラレスに引き継ぐ。



与吉が建設に
携った鉄道

62歳 1958年 昭和33年
三笠宮殿下がマチュピチュ遺跡訪問の際に、
長女オルガが花束を贈呈。この出来事が日本の
新聞に載り、家族は、日本大使館を通じて与吉と
連絡を取り、実家に呼ぶことになる。

72歳 1968年 昭和43年
半世紀ぶりに大玉村に
帰郷。出迎えた兄たちに
「電気は点いたか?」と
聞いて、報道される。



帰郷した際の与吉

73歳 1969年 昭和44年
8月29日 ペルーにて家族に見守られながら永眠

【あだたらふるさとホール】

両村交流の足跡を数々展示しております

「あだたらふるさとホール」ではマチュピチュ村と大玉村の
両村交流の記録やメモリアルフォト、マチュピチュ村から
贈られた貴重な記念品を常設展示しております。
野内与吉氏の功績を継承し、その生涯をご紹介している年表や
足跡などもじっくりご覧いただけます。ぜひ足をお運びいただき、
歴史と共に歩んできた両村の交流を振り返り、当時の情景や
人々の想いをめぐらせてみてはいかがでしょうか。



🕒 9:00~18:30
(入館は18時まで)
📅 毎週火曜・年末年始
(但し、祝日の場合は開館
次の平日が休館)
💰 大人100円
高校生以下50円
(村内居住・勤務の方は無料)
🅐 20台



あだたらふるさとホール



この事業は、福島県地域創生
会支援事業(サポート事業)の
補助金を受けて実施しています。

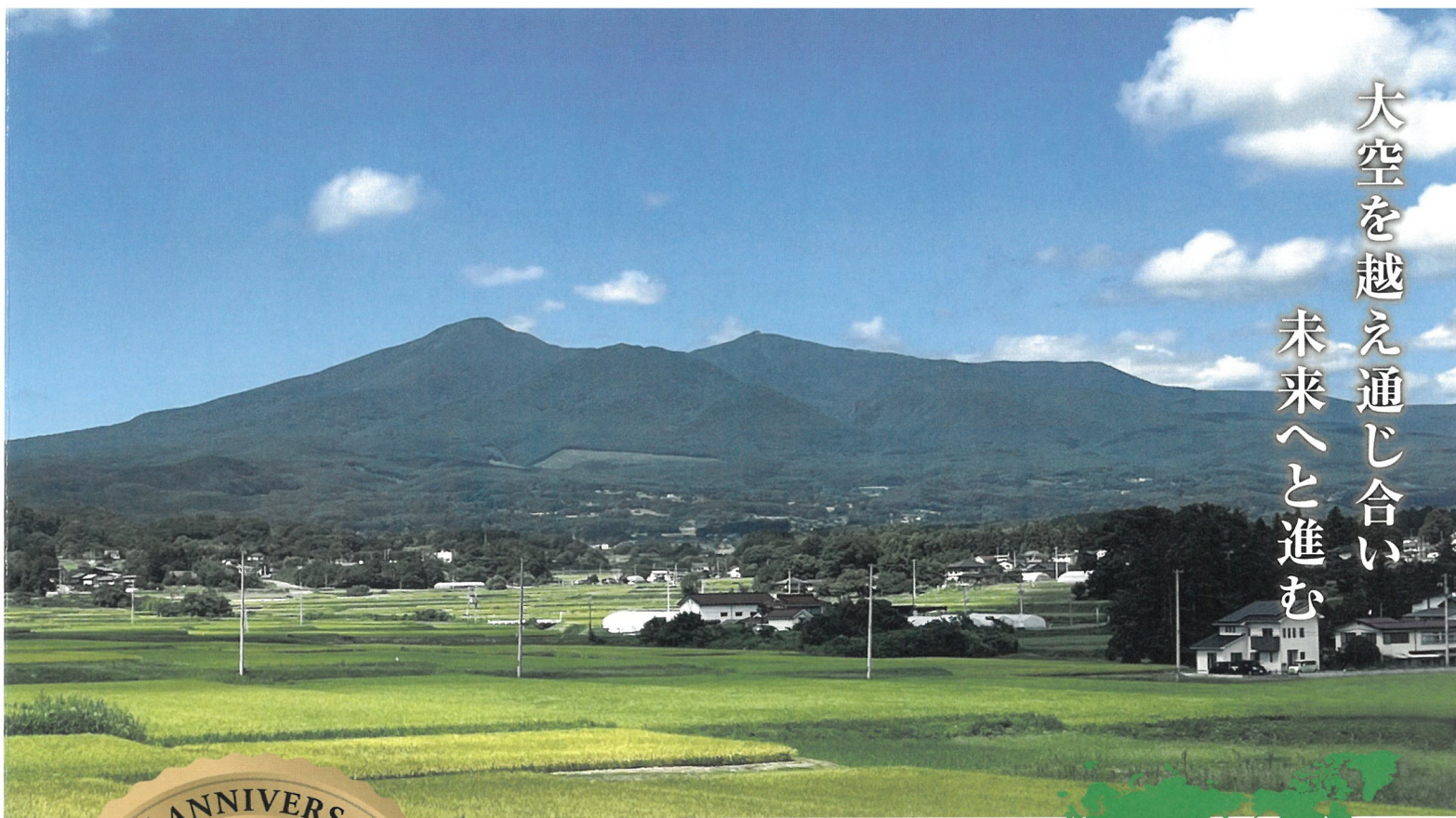
編集
発行



〒969-1392
福島県安達郡大玉村玉井字星内70番地
電話: 0243-48-3131 FAX: 0243-48-3137
<https://www.vill.otama.fukushima.jp/>



大玉村HP



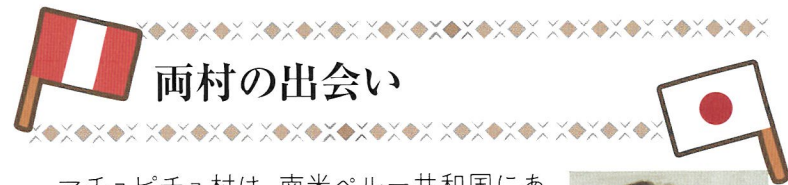
大空を越え通じ合い
未来へと進む



大玉村と
マチュピチュ村



大空を越え通じ合う 両村のパートナーシップ 友好都市協定締結に 至るまでと、その後の交流



両村の出会い

マチュピチュ村は、南米ペルー共和国にある人口約3,000人の村で、世界遺産「マチュピチュ歴史保護区」があることで、観光地としても世界的に有名な村です。この年間100万人が訪れるといわれる村に大きく貢献したのは、日本人で大玉村出身の「野内与吉」といいます。



野内与吉氏

野内与吉氏は、大玉村で生まれ育ち、21歳でペルーに移住し、マチュピチュ村での生活を始めると、農園や鉄道事業に従事しました。やがて村民のために飲み水や温泉を引き、水力発電によって電気もつくり、村の発展に大きく尽力したことから、行政最高責任者に任命され、村長を務めました。

こうした野内氏の功績が縁となり、2015年10月26日に大玉村とマチュピチュ村は友好都市協定を締結しました。



野内与吉氏の親族と再会



平成24年度
親族と村民ら有志によるマチュピチュ訪問



友好都市協定締結に向けて

かねてよりマチュピチュ村から友好都市締結の申入れがあったものの、実現には至らずにいました。

平成24年4月にマチュピチュ村長から友好都市締結を希望する文書が届き、相互訪問のもと、締結方法や時期などを相談したい旨を記した招待状を送付し、同年6月にマチュピチュ村から、友好都市締結に向け手続きを進める文書を受理しました。

その後は在日ペルー大使館の協力も得ながら話を進め、2015年10月、押山利一大玉村長を団長とする大玉村訪問団がマチュピチュ村を訪問し、マチュピチュの歴史保護区にて友好都市協定締結が実現しました。マチュピチュ村が友好都市協定締結を結ぶのは初めてのことです。

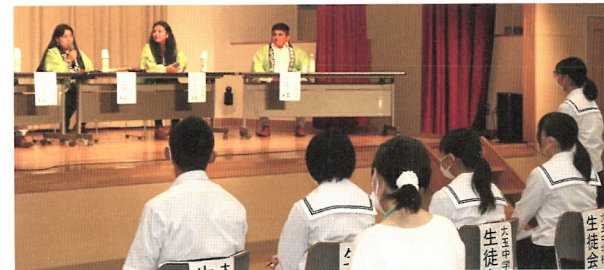
翌年の2016年夏には、マチュピチュ村長、村長令夫人、村議員など9名の方々が来村され、おおたま夏まつりのセレモニーとして友好都市交流活動指針の締結を行いました。



平成28年 おおたま夏まつり
村民が見守る中、交流活動指針協定を締結



平成27年
友好都市協定締結
押山利一大玉村長と
ガヨソマチュピチュ村長
＝マチュピチュ遺跡内で



村民参加型のトークイベントを実施



令和5年 交流活動指針協定締結
押山利一大玉村長(右から3人目)とエルピスマチュピチュ村長(中央)



福島県知事のもとへ表敬訪問



村民らによる歓迎セレモニー



「人・もの・情報」の交流を推進

2018年(7月28日～8月6日までの10日間)、マチュピチュ村公式訪問団(12名)と一般訪問団(15名)がマチュピチュ村を訪問し、世界を相手に活躍できる国際感覚豊かな人材育成と、村民の「国際交流」に対する理解の醸成を図りました。

また、住民主体の国際交流により「人・もの・情報」の交流を積極的に推進することで、持続可能な発展を目指しています。



大玉中学校の生徒も参加



平成30年友好訪問団の皆さん



未来へと続いてゆく友好都市の絆

令和以降も様々な交流は続き、令和3年には「ペルー独立200周年記念国旗贈呈式」にて在日ペルー大使館より、2020年東京オリンピック・パラリンピック選手団使用のペルー国旗が受贈されました。また、令和4年には「プカラの牛」巡回展で、南米・ペルー伝統陶芸品である「プカラ」と、福島県の特産「赤べこ」を展示し、多くの来場者の皆様に訪れていただきました。

令和5年9月には相互交流を再構築すべくマチュピチュ村のエルピス村長御一行(5名)と片山慈英士氏が大玉村を訪問。新しく締結した活動指針のもと、今後も教育、農業、観光、経済などの分野で、文化交流や農業技術の共有、観光戦略について情報共有を図り、継続的な交流を促進してまいります。



ペルー独立200周年記念国旗贈呈式



「プカラの牛」巡回展

交流のあゆみ10年

1998年 (平成10年)	2012年 (平成24年)	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2018年 (平成30年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)	2023年 (令和5年)	2023年 (令和5年)	2024年 (令和6年)
与吉の親族などによる 最初のマチュピチュ訪問 9名の訪問団が、現地の親族を訪ねるためマチュピチュ村を訪問。村長と会談を行い、その際にマチュピチュ村より姉妹都市締結の申入れがあった。	親族と村民等有志による 2回目のマチュピチュ訪問 訪問団は大玉村長の親書を携え、マチュピチュ村長とウルバンバ郡長と会談を行い、両村の交流を深めることを合意した。	友好都市協定の締結 in マチュピチュ村 両国の大使館の協力も得ながら話を進め、この年の10月に大玉村長をはじめとする訪問団がマチュピチュ村を訪問。マチュピチュ遺跡「聖なる広場」にて友好都市協定を締結した。	交流活動指針協定を締結 in 大玉村 マチュピチュ村長、村長令夫人、村議など9名が大玉村を訪問し、8月7日のおおたま夏まつりのセレモニーとして交流活動指針協定を締結。	副村長を団長として 4回目の訪問 マチュピチュ村公式訪問団と一般訪問団の計27名がマチュピチュ村を訪問し、教育・防災・環境分野の視察を実施。	ペルー独立200周年 記念国旗贈呈式 在日ペルー大使館より、ホストタウン登録をしている縁で2020年東京オリ・パラ選手団使用のペルー国旗を大玉村へ寄贈。	「プカラの牛」巡回展 ペルー南部の伝統陶芸品である「プカラの牛」と福島県の特産品「赤べこ」を同時展示	日本・ペルー共和国 外交関係樹立 150周年記念式典 駐日ペルー特命全権大使より招待を受け大玉村長、マチュピチュ村長らがレセプションに出席し、情報交換を行った。	交流活動指針協定を締結 in 大玉村 教育、農業、観光、経済分野における交流促進を図るための活動指針を締結。	友好都市協定締結 10周年記念式典 11月21、22日に村民参加型の記念式典に加え、在日ペルー大使館公邸料理人による料理教室や絵画展も同時開催し、ペルー文化を楽しんだ。



これまでに築き上げてきた両村の友好関係を礎に、今後も継続してさらなる友好都市間の交流をすすめてまいります

2015年10月
マチュピチュの歴史保護区で
友好都市締結を行いました